

第 18 回運営委員会の協議状況

日 時 平成 17 年 3 月 10 日 (木) 18:30 ~ 21:45
場 所 西宮市民会館 特別会議室
出席者 (委員) 松本 (誠)、川谷、岡田、長峯、佐々木、中川
村岡、加藤、草薙、酒井、田村、山仲
(河川管理者) 田中、西川、松本、西村、竹松
(事務局) 黒田、前川

内 容 (協議結果)

次の協議結果を次回流域委員会に報告、提案する。

1 第 15 回流域委員会の議題調整

(1) 治水計画の詳細検討 (確率雨量・計画対象降雨の設定 (継続) 流出解析 (継続))

次回の流域委員会では、流出解析 (流出解析手法から流出モデル定数の設定まで) の基本的な考え方を再度協議し、共通認識を図る。

計画降雨の算出手法の再整理 (引き伸ばし率、棄却、カバー率等) については、基本高水を固める時までに行う。

(主な意見)

- ・流出解析の協議にあわせ、並行的に流域内貯留対策等検討項目 B も協議していく方がよいのでは。
- ・流出モデルを確定し、基本高水が固まればできる。まず、流出モデルを確定することが大切である。基本高水の数値が固まらなると、対策の検討はできない。
- ・流出解析ワーキングチームによる流出モデルのチェックには時間がかかるのではないか。流出モデルを確定するまでの間は、何を協議するのか。
- ・項目 C の協議は可能である。
- ・流出モデルについて、関数等を使って計算する部分は、流出解析ワーキングチームで確認してよいが、流出モデルの基本的な考え方の部分は、委員会で議論し、共通認識を図るべきである。
- ・川谷委員の論点整理資料に記載のある、手法 1 (カバー率を適用) 手法 2 (棄却を適用) の選択を、まず、すべきではないのか。
- ・手法 1、2 については、必ずしも次回の委員会で決めなければならないことではない。基本高水を固める時でよい。

(2) 流出解析ワーキングチームの進め方

日程調整の上、早期に第 1 回会合を開催し、進め方等を協議する。協議結果は、流域委員会に報告する。

(主な意見)

- ・日程調整が可能なら、次回委員会までに開催しておく方がよい。
- ・チェックに相当の時間がかかるのではないか。
- ・まず、河川管理者から流出解析のバックデータ等の説明を受けた後、意見交換 (質疑応答) ができればよい。
- ・川谷委員の論点整理資料は、わかりやすい。具体的内容については、流出解析ワーキングチームで精査してほしい。

2 その他

(1) ワーキンググループの進め方

ワーキンググループの進め方、作業内容等については、再度運営委員会で協議の上、4月の流域委員会に報告、提案する。

(主な意見)

- ・ワーキンググループの進め方については、もう一度議論する時間を確保する必要がある。
- ・各グループにかかわる環境については、そのとらえ方、課題等を共有しておく必要がある。
- ・3つのワーキンググループについては、少なくとも4月から具体の作業に入れるよう協議を進めるべきである。
- ・利水グループ、総括グループを立ち上げるべきではないか。

(2) 第4回リバーミーティングの運営

司会は、中川委員が行う。その他、運営に関しては、従前と同様とする。

(3) 中間報告

委員会設置後1年が経過することから、これまでの取り組み及び今後の対応（スケジュール）を整理する。ワーキンググループの作業内容等が固まった後の4月から5月をメドに文章をとりまとめる。

(4) 次回の運営委員会の日程

3月28日(月)流域委員会終了後に開催する。第16回流域委員会の議題調整を行う。

4月11日(月)13:30から開催する。ワーキンググループの進め方等について協議する。